

中心市街地活性化と高齢者が住み慣れた地域で最期まで暮らせる街づくり  
小規模多機能コミュニティづくり「田園プロジェクト」

社会福祉法人 <sup>ま</sup> <sup>ち</sup> 地域でくらす会

機関名	社会福祉法人 地域でくらす会		
所在地	鳥取県米子市東倉吉 57		
電話番号	0 8 5 9 - 3 7 - 6 6 1 1		
地域概要	(1)管内人口 150 千人	(2)管内商店街数 8 商店街	
事業の対象となる 商店街の概要	(1)商店街数 1	(2)会員数 19 商店	
	(3)空店舗率 26.3%	(4)大型店空き店舗数 0	
	東倉吉町商店街振興組合		
商店街の類型	1. 超広域型商店街 2. 広域型商店街 3. 地域型商店街 4. 近隣型商店街		

【事業名と実施年度】

平成 16 年度 コミュニティ施設活用事業（高齢者等交流施設）

- ・ 空き店舗を活用した高齢者・障がい者等の交流センター
- ・ 認知症のデイサービスセンター
- ・ 障がい者の働く場の提供

総事業費

29,000 千円

【事業実施内容】

1. 背景

米子市は、鳥取県の西側、山陰のほぼ中央に位置し、東には「伯耆富士」とも呼ばれる大山、北に日本海、そして西には汽水湖として日本で 5 番目の大きさの中海という豊かな自然に囲まれている。紀元前からの歴史を持ち、弥生時代の大規模集落跡や古墳時代の遺跡も数多く発見されている。江戸期には米子城が築かれ、伯耆国十八万石の城下町として繁栄した。現在では、高速道路、鉄道、空港、港など便利なアクセス環境から、「山陰の玄関口」として発展している。



米子市位置図（鳥取県HPより）

地方都市における高齢化は、まず中心市街地と農村部において進み始め、最近では郊外においても進みつつある。とりわけ早くから高齢化が進んだ中心市街地においては、極めて高い高齢化率となっている。米子市の中心市街地の高齢化率は 20.4%にもなっ

いる。

また、中心市街地の高齢者の世帯タイプは、他地域と比べて「一人暮らし」や「夫婦世帯」の比率がかなり高くなっている。これは、中心市街地が、高齢者がいつまでも自立して生活していける条件をある一定程度保っていることを意味している。しかし、商店街の空き店舗増加等による衰退で、かつて顧客であったそれらの生活者も商店街から遠ざかりつつあり、商店街に対して日々の生活が完結できる施設やサービスを求めている。事業者と協働してこれに応えるべく、複合機能を持つコミュニティ施設の設置により中心市街地に多くの人を集め、賑わいを創出し商店街の活性化を図るため本事業を行った。

## 2. 事業内容

社会福祉法人地域でくらす会、中心市街地アーケード商店街振興組合「笑い通り協議会」、まちづくり市民有志の「地域を見つめ直す懇談会」、「呆け老人をかかえる家族の会鳥取県支部」、「高次脳機能障害家族会」、「高齢社会をよくする会、米子」などは、まちづくり市民団体「いきいきまちくらネットワーク」を形成して、市街地アーケード商店街の空き店舗を改造して、地域支援の拠点とする多機能のコミュニティ施設をつくり『田園プロジェクト』として、中心市街地の活性化と高齢者が住み慣れた地域で最後まで暮らせるシステムづくりに取り組んでいる。具体的な機能としては以下のようになっている。

### (1) 「田園」の概要

- ・商店街の空き店舗となっていた喫茶店（店舗名：『田園』）を本事業で利用するため、改装して本施設を開設した。プロジェクト名の田園は当店舗名に由来する。

- ・延床面積 : 190 m<sup>2</sup> (2階建て)
  - ・建設工事費用 : 28,982 千円
- |   |         |            |
|---|---------|------------|
| } | 福祉系補助金  | : 9,049 千円 |
|   | 商工系補助金  | : 8,512 千円 |
|   | 寄付金充当   | : 8,603 千円 |
|   | 地域でくらす会 | : 2,818 千円 |
- 円

- ・田園プロジェクト全体での職員数は9人、障がい者の登録労働者数は22人である。

### (2) 田園の機能

田園は様々な機能を有しており、高齢者や障がい者が気軽に訪れることができ、田園を中心として街及び商店街の人々の交流が活発化する仕組みがつけられている。



「田園」



絵手紙教室

- ①高齢者が元気な時から通える交流と趣味の場「地域交流センター田園」（2階）
  - ・趣味の教室  
パソコン教室、絵手紙教室、太極拳教室、折り紙教室、うたごえ喫茶、健康づくり教室などを行っている。
  - ・ものづくり工房  
主に高齢者が、木工細工・廃ガラスを利用した植木鉢、石鹸箱を作成し、商店街イベントで販売している。
- ②高齢者のワンストップ相談「呆け老人をかかえる家族の会鳥取県支部」（2階）  
相談時間：月曜日～金曜日 午前10時～午後5時  
相談件数：427件（他地域で行っていた前年と比較して137%増加）
- ③介護保険の認知症デイサービス「デイサービス田園」（1階）  
認知症対応小規模通所介護施設。住み慣れた自宅から歩いて通える場所にあることが大きな特徴である。主に認知症高齢者が通っている。定員は10名である。
- ④障がいのある人の仕事場・喫茶「喫茶田園」（1階）  
障がい者通所授産所『まちや』へ業務委託をしている。職員数は5名、障がい者の登録労働者は19名となっている。



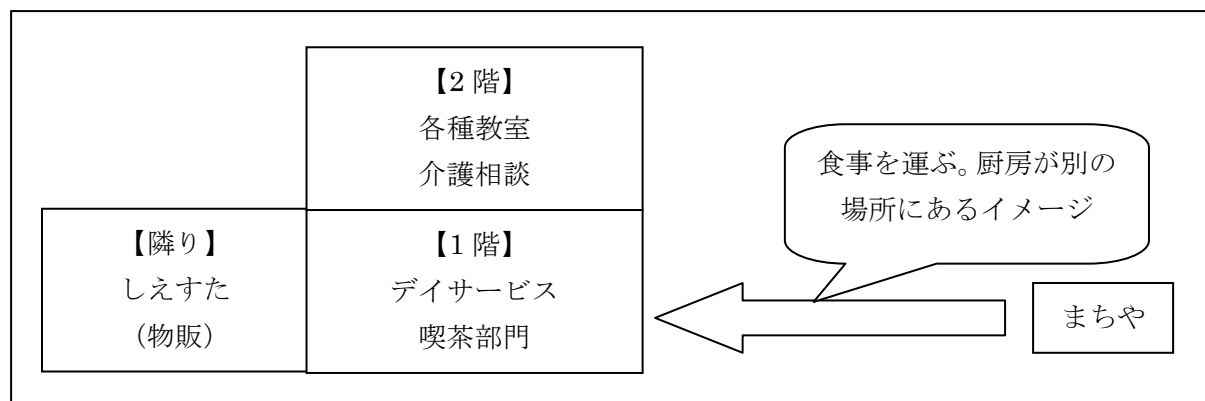
喫茶田園



高齢者用商品等の販売コーナー

- ⑤障がい者通所授産所『まちや』  
喫茶田園とデイサービス田園への食事提供などを行う機能である。田園からは50mほど離れた場所に立地している。

【田園プロジェクト施設概念図】



## 【 効 果 】

### 1. 来街者の行動

2階部分を中心に展開される本事業と、「呆け老人をかかえる家族の会」の相談事業により、地域の高齢者が集まっている。1階のデイサービスでは、利用者及びその関係者が出入りし、喫茶部分では障がい者とその家族の来所がある。このことにより、地域福祉の増進と商業振興を合体させた新たな賑わいの創造に寄与した。

### 2. 商店街の認知度

地域交流センター田園、デイサービス田園がご近所型福祉のシンボルとして地域に定着したことによって、この街が安全で安心して暮らせる地域であるという認識をもってもらうことができた。

### 3. 近隣商店街への波及

田園の成功例にならい隣接する商店街にも福祉施設が3ヶ所オープンした。

### 4. 街の賑わいを創出

「田園プロジェクト」は、毎日介護賞（奨励賞）を受賞し、全国の地域再生戦略事例集に紹介され、全国各地から商業者、福祉関係者、議員、行政職員、学者などが視察に訪れている。田園開設以来、アーケード街の通行量も増え、近所には若者のブティックや障がい者による焼き芋屋もオープンして、街が活気を取り戻しつつある。

## 【 課 題 ・ 反 省 点 】

### ・事業費の確保

本施設の運営は1階の介護保険事業により行なわれているが、本事業の2階については「呆け老人をかかえる家族の会」のボランティアに委任されている。ボランティアではなく専門の人員の配置ができる予算を確保することが必要である。

本事業の地域交流センターの運営は、コーディネートをする人材の配置がその成否の鍵を握ると考える。実績を作り行政からの支援をより早く受けられるようにしなければならない。

## 【 事 業 の 実 施 ポ イ ン ト 】

1. 本年度の補助金は施設建設と立ち上げ運営費として当初より考えており、施設運営に関しては1階の介護保険事業で行うことを考えていたので、補助金が切れても施設運営ができなくなることはない。補助金が施設事業運営の根幹となすという考えはもたず、収益事業を持つことが重要である。
2. 同一の地域づくりコンセプトをもった、異なるジャンルの人材が集まって幅広いネットワークを形成することが重要である。何かしらの問題点がある場合にも、横断的な人脈間で専門的知識をお互いに活用することで、より幅広く問題解決策を発見することが出来る。

社会福祉法人地域でくらす会

**【 関 連 U R L 】**

地域でくらす会 <http://www.machikura.net/>